第123期

株主の皆様へ

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

トピー工業株式会社

証券コード　7231

このたび、代表取締役社長に就任いたしました高松信彦でございます。ここに、第123期の営業の概況をご報告申しあげます。

代表取締役社長　高松信彦

Profile

昭和 54年	4月	新日本製鐵株式會社 (現 新日鐵住金株式会社)入社
平成 23年	4月	同社執行役員製銑技術部長
平成 24年	4月	同社顧問 ウジミナス社執行役員技術・品質担当
平成 26年	8月	同社副社長経営企画担当
平成 28年	4月	新日鐵住金株式会社常務執行役員 グローバル事業推進本部副本部長
平成 28年	9月	ウジミナス社取締役
平成 29年	4月	当社専務執行役員社長補佐 新日鐵住金株式会社顧問
平成 29年	6月	当社代表取締役社長

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。ここに第123期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の営業の概況をご報告申しあげます。

当期において、当社グループは、中期経営計画「Growth & Change 2018」をスタートしました。その一環として、スチールホイール事業においてMW ITALIA S.R.L.との戦略的提携を強化するとともに、工業用ファスナーの海外拠点の生産能力増強を図り、グローバル展開を加速しました。また、スチールホイールの国内需要の減少等、経営環境の変化に対応するため、リンテックス株式会社の完全子会社化に向けた検討を開始いたしました。売上高、営業利益及び経常利益につきましては、取り巻く事業環境が厳しく、前期比で減収減益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益については、特別利益を計上したことにより、前期比で増益となりました。

今後も、中期経営計画の諸施策を着実に推進し、事業の持続的な成長を目指してまいります。加えて、将来を担う人材が最大限に能力を発揮できる働きがいのある会社への変革を図ってまいります。株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

Q 社長就任にあたり、ご自身の経歴と、抱負をお聞かせください。

このたび、社長に就任いたしました高松信彦でございます。長年、鉄鋼業の視点で仕事をしてまいりました。その間、高炉を中心に製鐵所の製造現場で17年、後半20年強を本社部門、あるいは海外事業を経験しました。今回の社長拝命に際し、多岐にわたる事業を持つ当社での責任の重さを考えますと、改めて身の引き締まる思いです。藤井前社長が築かれた経営路線を引き継ぎ、次のステップを確実に踏み出せるよう、全力を尽くしてまいります。2021年に迎える創立100年を超えてもなお、持続的に成長していくための新たなスタートとして、「良き伝統を引き継ぎつつ」、「何をすべきか」議論を尽くし、「礎を築きたい」と思っています。

Q トピー工業グループの強みは何でしょうか？

一言で言うとヒット商品を支える高い技術とその信用だと思っています。

当社グループはおよそ100年の長い歴史を持つ、技術に支えられた企業集団です。また、明るい雰囲気の職場も魅力的です。創業以来、長い歴史の中で、諸先輩が不断の努力と勇気、英断を積み重ねてきた結果、多岐にわたる商品が製造されています。その一つひとつが独自の技術を持ち、息の長いヒット商品となっているのは大きな強みです。小さなたゆまぬ改善の積み重ねが、大きな改革に繋がってきた当社グループらしい結果だと考えます。「One-piece Cycle」のキャッチフレーズどおり、素材から加工までの一貫生産体制を持ち、各工程で高い技術と、市場での信用・信頼、地位を確立していることこそが当社の強さの源泉、技術のトピーの証です。

Q トピー工業を取り巻く環境をどのように捉えていますか？

国内、海外ともに、難しい局面を迎えている変革の時代だと捉えています。

日本国内の人口が少しずつ減少する中で、国内市場の大きな伸びを期待することはできません。本格的なデフレ脱却には至っていない状況の中、ここ数年は、同業他社も販売価格を低減させるため、限界までのコスト切り下げに挑んでいます。その国内の収益減少を補うために、海外で収益拡大を求めるグローバル化が叫ばれ、新興国

等の「市場が伸びつつあり、人件費の安い国」に生産拠点を移し、輸出を含めた海外売上比率を拡大することこそが、今後の道だと思われてきました。しかし、昨年から少しずつ様相が変わり、色々な国で保護主義的動きが見え隠れしています。今までとは異なる難しい時代が予感されます。伸び行く海外、とりわけ、米国やインド、東南アジアが典型ですが、今後はその国の中で生産する、現地生産や巨大な中国の影響を考えることも大切であり、新たな戦略が必要と考えられます。厳しい変革期、当社グループも変わるべき時と捉えています。

Q 各事業の課題、今後の見通しはどのような内容になりますか？

各事業は、少しずつ異なる課題を持っていますが、今までの蓄積を発揮する時期だと思います。

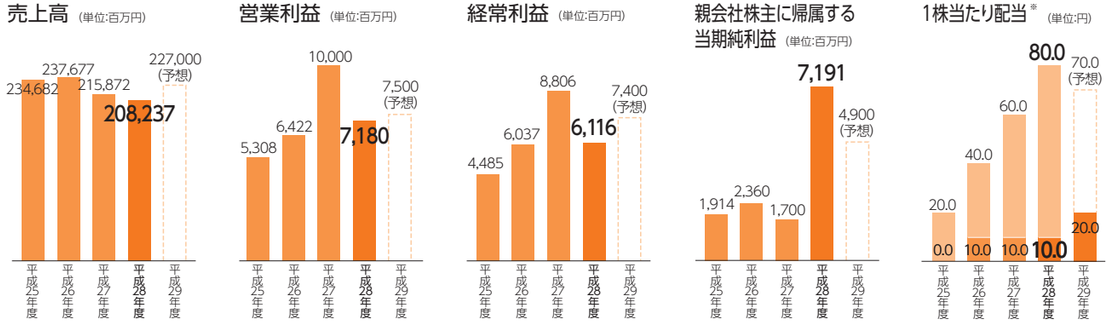
鉄鋼事業は、世界最高水準の設備を導入した新製鋼工場を新たな武器に、さらなる飛躍を目指しており、下工程の新鋭化という大きな課題は残っていますが、これを武器にその体力を高めていきたいと思います。

自動車・産業機械部品事業に関しては、長年トピー工業グループを支えてきた国内のスチールホイールが厳しい経営環境に置かれています。とりわけ乗用車用ホイールは、アルミホイールに対抗する新たな武器の確立が課題と考えます。一方、建設機械用足回り部品は、中国をはじめとして需要が拡大に転じてきました。チャンスを逃さぬように、今まで我慢して蓄積してきた力を発揮してまいります。

合成マイカ・ロボット事業は好調なマイカの拡販とクローラーロボットの本格的な事業化が課題です。スチール事業部が得意とする精錬技術をベースにした合成マイカ、造機事業部の建設機械の足回り技術を発展させたクローラーロボットともに、当社のキャッチフレーズである、「One-piece Cycle」の哲学を実現し、しっかり育ててまいります。

これら各事業の力、トピーの英知と総力を結集し、事業の持続的な成長と変革を成し遂げたいと思います。

連結決算ハイライト



※平成28年10月1日を効力発生日として、10株を1株とする株式併合を実施したため、平成25年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり配当を算定しています。

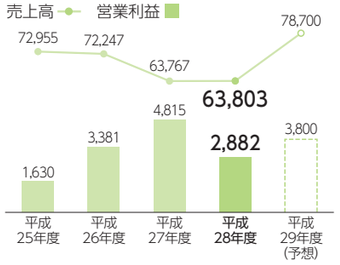
売上高	販売価格の下落や円高による影響等により、前期に比べ76億3千5百万円減少の2,082億3千7百万円となりました。
営業利益	販売価格と主原料価格との値差が縮小したこと等により、前期に比べ28億2千万円減益の71億８千万円となりました。
経常利益	支払利息の減少や持分法による投資利益の減少等による営業外損益の1億3千万円の利益増加(純額)の影響等を受け、前期に比べ26億8千9百万円減益の61億１千6百万円となりました。
親会社株主に帰属する当期純利益	固定資産売却益の増加等による特別損益の89億６百万円の利益増加(純額)の影響等を受け、前期に比べ54億９千万円増益の71億９千1百万円となりました。
配当	当期の期末配当金につきましては、当社の利益配分に関する基本方針及び平成29年3月までを取得期間とする488,200株(株式の取得価額の総額14億9千9百万円)の自己株式の取得による株主還元を勘案し、平成29年5月22日の取締役会決議により1株当たり70円とさせていただきました。

平成30年3月期 連結業績予想

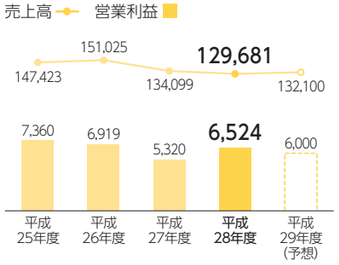
売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり年間配当
2,270億円	75億円	74億円	49億円	70円
(前期比9.0%増)	(前期比4.5%増)	(前期比21.0%増)	(前期比31.9%減)	

セグメントの業績

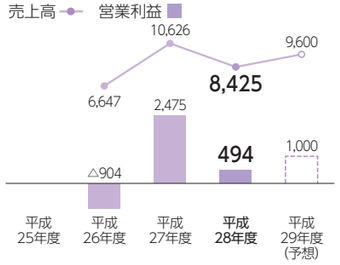
鉄鋼事業 (単位:百万円)



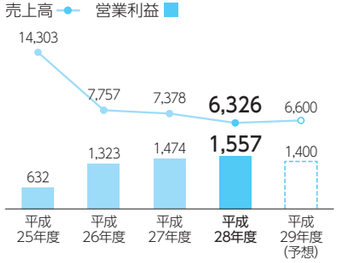
自動車・産業機械部品事業 (単位:百万円)



発電事業※1 (単位:百万円)

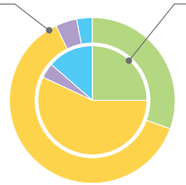


その他※1 (単位:百万円)



セグメント別売上高・営業利益 (単位:百万円)

平成28年度



売上高 208,237

- 鉄鋼事業 63,803 30.64%
- 自動車・産業機械部品事業 129,681 62.28%
- 発電事業 8,425 4.04%
- その他 6,326 3.04%

営業利益※2 7,180

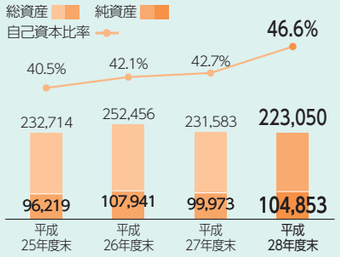
- 鉄鋼事業 2,882 25.15%
- 自動車・産業機械部品事業 6,524 56.94%
- 発電事業 494 4.32%
- その他 1,557 13.59%

※1 平成27年度より、従来「その他」に含まれていた「発電事業」について、量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更いたしました。平成26年度の数値は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示しております。

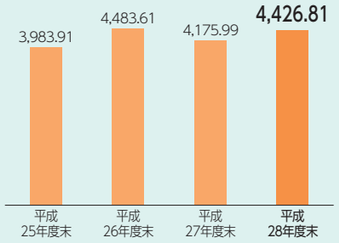
※2 セグメント別の営業利益及び構成比は、調整額調整前の数値で表示しております(合計11,459百万円)。

連結財務指標

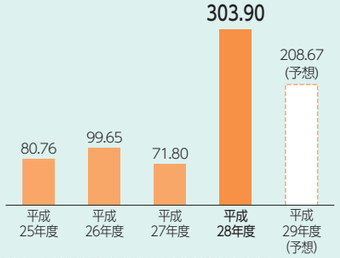
総資産・純資産・自己資本比率 (単位:百万円)



1株当たり純資産※3 (単位:円)



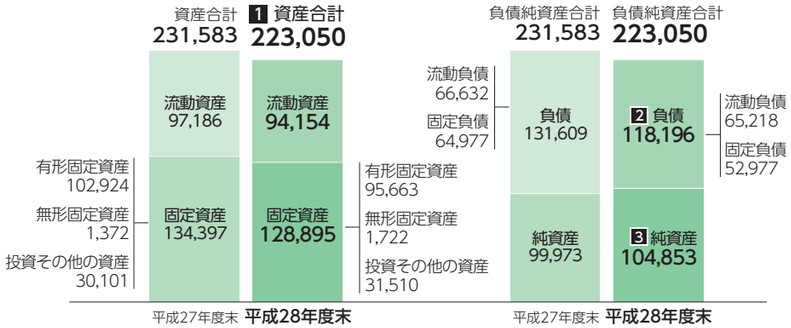
1株当たり当期純利益※3 (単位:円)



※3 平成28年10月1日を効力発生日として、10株を1株とする株式併合を実施したため、平成25年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益を算定しています。

連結財務諸表のポイント

財政状態 (単位:百万円)



1 資産

現金及び預金の減少84億1千7百万円や売上債権の増加41億9千4百万円、有形固定資産の減少72億6千万円、投資有価証券の増加22億8千万円等により、前期末に比べ85億3千3百万円減少し、2,230億5千万円となりました。

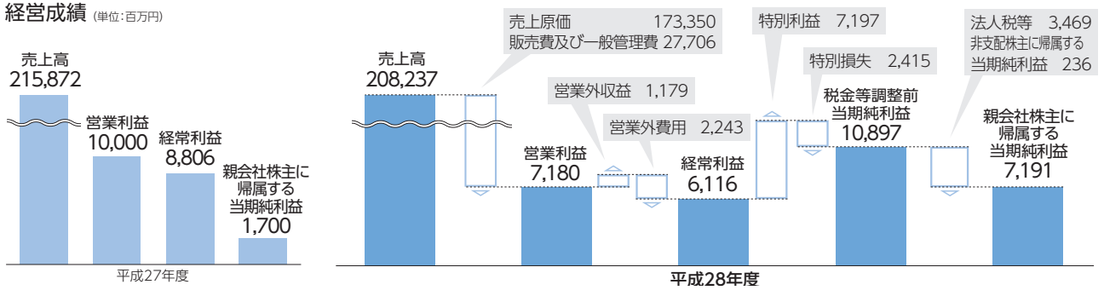
2 負債

買入債務の増加27億9千4百万円や有利子負債の減少142億3千9百万円、未払法人税等の減少9億1千9百万円等により、前期末に比べ134億1千3百万円減少し、1,181億9千6百万円となりました。

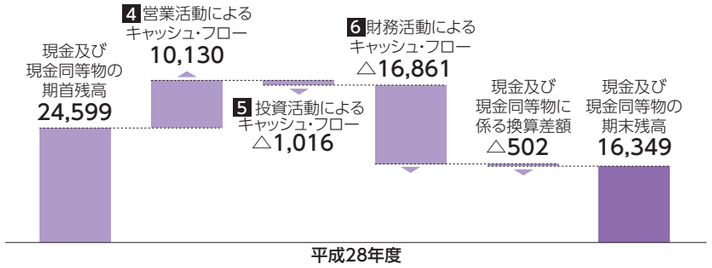
3 純資産

利益剰余金の増加57億7千万円やその他有価証券評価差額金の増加16億1千4百万円、為替換算調整勘定の減少15億9千4百万円等により、前期末に比べ48億8千万円増加し、1,048億5千3百万円となりました。

経営成績 (単位:百万円)



キャッシュ・フローの状況 (単位:百万円)



4 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益108億9千7百万円や減価償却費106億3千1百万円、有形固定資産の売却及び除却損益54億3千4百万円、法人税等の支払33億8千6百万円等により、101億3千万円の増加となりました。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出84億3千9百万円や有形固定資産の売却による収入96億3千7百万円等により、10億1千6百万円の減少となりました。

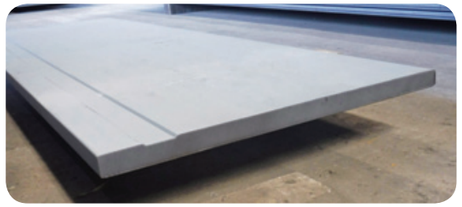
6 財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金と社債の純減額136億8千万円等により、168億6千1百万円の減少となりました。

溝付き広幅平鋼を開発

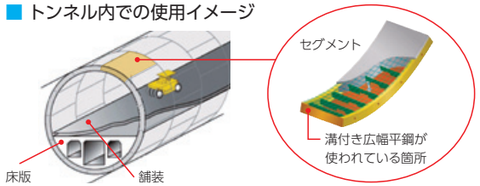
スチール事業部は、豊橋製造所で645ミリ幅の溝付き広幅平鋼を開発しました。東京外かく環状道路向けトンネル用セグメントの継手板として新たに開発したものです。従来は圧延材の製造可能幅は520ミリが最大でしたが、圧延ライン拡幅の設備投資によって645ミリ幅の圧延を可能にしました。この溝付き広幅平鋼は、新しい圧延技術と当社独自の圧延解析システムによる解析技術の向上により製品化が実現しました。

また、切断、孔（あな）あけ等の加工に対応するために、継手板自動加工ラインを導入しました。様々なニーズに対応可能であり、高生産性、高精度の加工を実現しています。製鋼から圧延、加工までの一貫した生産を行うことにより、デリバリーへの対応力に優れています。幅や厚みの違うサイズの生産にも取り組んでおり、今後とも、お客様からいただく多様な製品へのご要望に、柔軟にお応えしてまいります。



溝付き広幅平鋼

■ トンネル内での使用イメージ



子ども職場見学会を開催

本社において、社員の子どもたちを対象に「子ども職場見学会」を開催いたしました。当社では昨年「働きがい向上委員会」を設置しさまざまな施策を通じて、働きがいのある会社づくりを推進しています。この見学会は、その施策のひとつとして開催したものです。当日は、子どもたちが親の職場を訪れ、実際に仕事をしている様子を見学しました。また、手書きの名刺を作成し、藤井社長（現会長）と名刺交換を行いました。その後親子揃ってランチタイムを楽しみ、当社製クローラーロボットの遠隔操作を体験しました。参加した子どもたちにとっては、親が働いている姿を見られ、当社に親しむことができた貴重な一日となりました。

このイベントの目的は、社員の子どもたちに親の仕事や当社に対する理解を深めてもらうことにあります。また、家族を大切にする職場の雰囲気づくりを推進し、社員がワーク・ライフ・バランスを実現することを意図しています。

本社受付での記念写真

オフィスを見学する
ご家族の皆さん

世界初のフリッパー型全方向移動クローラーを開発、海洋資源調査に展開

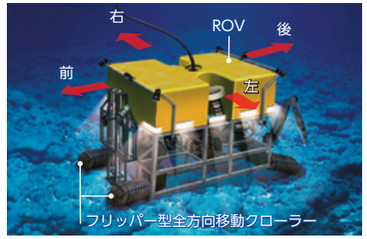
サイエンス事業部は、国立研究開発法人海洋研究開発機構及び日産自動車株式会社と共同で、「次世代海洋資源調査技術」に展開するフリッパー※型の全方向移動クローラーをＲＯＶ（遠隔操作無人機）に装着した試作ユニットの海中試験を実施し、成功しました。

今回、トピー工業が開発したクローラーは、試作ユニットの姿勢を変えることなく前後左右に移動することが可能であり、このような機能を持ったフリッパー型移動機構は世界初となります。さらに、この移動機構は機体の姿勢角度を自由に変更できる機能も有しています。

今回開発したクローラーにより、海底での細かい移動と自由な機体姿勢の調整が可能となり、高精度なサンプリングを実現しました。

今後も、小型から大型まで、全方向移動クローラーモジュールのラインナップを充実させ、サービス分野や農業分野など幅広い分野でのクローラーの活用を実現してまいります。

※フリッパー：クローラーの足まわりの部分が個別に回転する機能



ROV試作ユニット（出典：国立研究開発法人海洋研究開発機構）

TPMIが主要取引先より複数の表彰受賞

トラック用ホイールを製造・販売するトピー パリンダ マニファクチャリング インドネシア（TPMI）が、日野モータース マニュファクチャリング インドネシア社様より2016年度「ベストコストパフォーマンス」及び「ベストデリバリーパフォーマンス」を受賞いたしました。受賞は、前者が原価低減活動の取り組み、後者が納入遅延ゼロ及びその取り組みが評価されたものです。ダブルでの受賞は約150社あるサプライヤーの中でもTPMIだけとなります。

また、クラマユダ・ティガベルリアン社様（三菱ふそうトラック・バス株式会社様のインドネシアでの卸売・販売事業会社）より2016年度の「ベスト品質サプライヤー賞」を受賞いたしました。TPMIの受賞は、年間品質不具合発生件数ゼロの達成と、その品質改善の取り組みが評価されたものです。約130社あるサプライヤーの中より、4社が受賞しました。

TPMIは今後も品質、コスト、納入それぞれの力を高め、お客様の信頼向上に努めてまいります。

記念の盾を受領したTPMI幹部

TPMI外観

社会福祉団体への寄付

当社株式を1,000株以上お持ちの株主様への株主優待は、交通傷害保険に加え、フラワープレゼントまたは社会福祉団体への寄付のいずれかになっております。

寄付を選択されますと、株主様に代わって、当社から社会福祉団体へフラワープレゼント相当額を寄付いたしております。

株主優待制度の寄付金内訳

	平成28年9月末株主様	平成29年3月末株主様
寄付選択者数	203名	198名
寄付金額	609,000円	594,000円
寄付先	日本赤十字社	(公財)交通遺児育英会

※株主優待制度の詳細は裏表紙をご覧ください。

会社概要 (平成29年3月31日現在)

商　　号 トピー工業株式会社
創　　立 1921年(大正10年)10月
資 本 金 20,983百万円
従業員数 単体 1,803名　連結 4,568名

主要な事業所

■**本　　社**　東京都品川区大崎一丁目2番2号
TEL 03-3493-0777(総務部直通)

■**支　　店**
名古屋支店　名古屋市中区
大阪支店　大阪市中央区

■**生産拠点**
豊橋製造所　愛知県豊橋市
豊川製造所　愛知県豊川市
綾瀬製造所　神奈川県綾瀬市
神奈川製造所　神奈川県茅ヶ崎市

■**研究開発拠点**
技術センター　愛知県豊橋市

役　　員 (平成29年6月23日現在)

■**取締役**

取締役会長	藤井康雄
代表取締役社長	高松信彦
取締役副社長	石井泰人
取締役副社長	小島　正
専務取締役	齋藤徳夫
取締役	井上　毅
取締役	森脇純夫

■**監査役**

常勤監査役	山本　勝
常勤監査役	小川幸弘
監査役	川端雅一
監査役	醤油和男

■**執行役員**

専務執行役員	熊澤　智
専務執行役員	木下浩幸
常務執行役員	木嶋伸一
常務執行役員	竹内一郎
常務執行役員	武澤雅吉
執行役員	中山和久
執行役員	大洞勝義
執行役員	山口政幸
執行役員	福良智志
執行役員	中村　毅
執行役員	小林弘侍
執行役員	川野孝徳

連結子会社(21社)

日本
トピー実業株式会社
トピー海運株式会社
トピーファスナー工業株式会社
株式会社トピーレック
九州ホイール工業株式会社
株式会社トージツ
エヌイー・トージツ株式会社
株式会社オートピア
明海リサイクルセンター株式会社
株式会社三和部品
明海発電株式会社

アメリカ
トピーアメリカ,INC.
トピープレシジョンMFG.,INC.

メキシコ
トピー・エムダブリュ・マニュファクチャリング・メキシコS.A. DE C.V.
トピーファスナー・メキシコS.A. DE C.V.

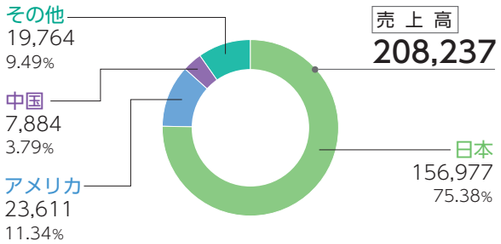
中国
福建トピー汽車零件有限公司
トピー履帯(中国)有限公司

インドネシア
トピー パリンダ マニファクチャリング インドネシア
トピー履帯インドネシア

タイ
トピーファスナー(タイランド)LTD.

ベトナム
トピーファスナー・ベトナムCO.,LTD.

地域別の売上高 平成28年度 (単位:百万円)



株式の状況 (平成29年3月31日現在)

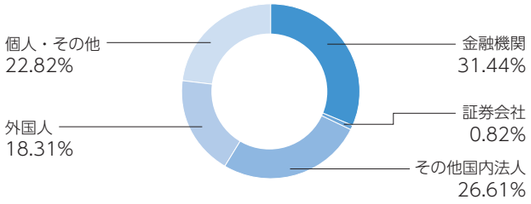
発行可能株式総数 …… 88,300,000株
発行済株式総数 …… 24,077,510株
株主数 …… 11,538名

大株主一覧(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
新日鐵住金株式会社	4,818,264	20.45
トピーファンド	1,001,910	4.25
明治安田生命保険相互会社	975,134	4.14
株式会社みずほ銀行	787,802	3.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	626,600	2.66
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	574,600	2.44
トピー工業社員持株会	558,743	2.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	539,900	2.29
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	533,100	2.26
みずほ信託銀行株式会社	489,300	2.08

(注) 1.当社は、自己株式を519,519株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。
3.トピーファンドは当社及び関係会社取引先持株会の名称です。

所有者別株式分布状況



自己株式は個人・その他に含めて記載しています。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	3月31日(定時株主総会・期末配当) 9月30日(中間配当)
単元株式数	100株
株主名簿管理人 (特別口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
お問い合わせ先	三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.topy.co.jp/

● **住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について**
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

● **未払配当金のお支払いについて**
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

第123回定時株主総会決議ご通知

平成29年6月23日開催の当社第123回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されましたので、ご通知申しあげます。

記

報告事項

1）　第123期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件は、その内容について報告いたしました。

2）　第123期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）計算書類報告の件は、その内容について報告いたしました。

決議事項

議案：取締役7名選任の件は、原案どおり承認可決されました。

以上

株主優待制度のご案内 （平成29年3月末基準日株主様）

ご所有株式数	優待内容
100株以上 300株未満	交通傷害保険の付保 死亡・後遺障害保険（最高100万円） 入院特約（3,000円/日）
300株以上 1,000株未満	交通傷害保険の付保 死亡・後遺障害保険（最高100万円） 入院特約（3,000円/日） 通院特約（1,000円/日）
1,000株以上	交通傷害保険の付保 死亡・後遺障害保険（最高100万円） 入院特約（3,000円/日） 通院特約（1,000円/日） フラワープレゼントまたは 社会福祉団体への寄付

（注）1. 保険期間　3月末基準日株主様　7月1日～12月31日
9月末基準日株主様　翌年1月1日～6月30日

2. 保険対象者　弊社株主名簿に記録されている個人・法人様
ただし、法人株主様の場合は、社長、頭取、理事長等、当該法人様組織の長たる方1名

3. フラワープレゼントまたは社会福祉団体への寄付
3月末基準日株主様　6月ごろ
9月末基準日株主様　12月ごろ

【株主優待交通傷害保険】
当保険は保険業法における交通事故傷害保険普通約款が適用されます。なお、保険内容についてのお問い合わせ、事故のときのご連絡は、下記事務局までお願いします。

トピー工業株主優待「交通傷害保険」サポート事務局
株式会社トピーエージェンシー
フリーコール：**0120-959-766**　TEL：**03-5436-0212**
引受保険幹事会社：損害保険ジャパン日本興亜株式会社

One-piece Cycle
流れるように美しい、技術と品質。

UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080

VEGETABLE OIL INK

表紙写真：トピー履帯（中国）有限公司